

学校名： とさしりつたかおかちゅうがっこう
土佐市立高岡中学校
 校長名： 村岡 治
 所在地： 高知県土佐市高岡町甲1905番地
 電話番号： 088-852-2136

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

土佐市は高知県中部に位置し、温暖な気候と豊富な水の恩恵を受け、昔から農業の盛んな地域で、平野部ではビニールハウスによる施設園芸、周辺の山地では果樹栽培（土佐文旦等）が行われている。

本校は全校生徒 439 名（平成 22 年 5 月現在）で市内の中学校では最も生徒数が多い。生徒は朗らかで素直な生徒が多く、何事にも前向きに取り組むことができる。また、体を動かすことが好きな生徒が多く、体育の授業に積極的に取り組むとともに、昼休みにはグラウンドで元気に運動に親しんでいる光景が見られる。体育祭や音楽集会などの行事にも意欲的に取り組むなど、日々活力ある学校生活を送っている。

本校では部活動も盛んで、運動部は県内外の対外試合等で活躍している。地域には柔道、剣道の道場もあり、本校でも柔道部、剣道部が活動している。しかし、武道が盛んに行われているという地域ではなく、武道については初心者が多く、武道の授業を行うに際しては初心者に配慮した指導が重要である。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	6	4	4	3	17	
生徒数	男	82	75	89	3	249
	女	70	58	60	2	190
	計	152	133	149	5	439

教員数 33名（保健体育科 3名）

武道の授業の状況

領域:武道		領域の内容:柔道				
	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	12	0	0		12	
担当教員数	2	0	0		2	
(外部指導者)	(0)	(0)	(0)		(0)	
生徒数	男	82	0	0		82
	女	71	0	0		71
	計	153	0	0		153

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 地域連携指導推進協力者会議の指導や助言により、授業者の柔道に関する知識・理解が深まり、指導技術の向上につながった。
- 新学習指導要領に対応した単元計画構造図の作成を通じて、新学習指導要領の趣旨や内容指導の在り方を確認することができた。
- これまで男女別に授業を行ってきたが、男女共習で行うことで男子の力強さや女子の丁寧さが互いのよい手本となり、男女ともに興味・関心が高まった。
- これまでは柔道場で授業を行ってきたが、隣接する剣道場に器械運動用マット及びジョイント畳マットを設置することで、多くの生徒が同時に投げ技や固め技の練習に取り組むことができるなど、技能習得を効率よく行うことができた。このことにより、他の学校の実態（柔道場がない学校）にも対応する授業の在り方を示すことができた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

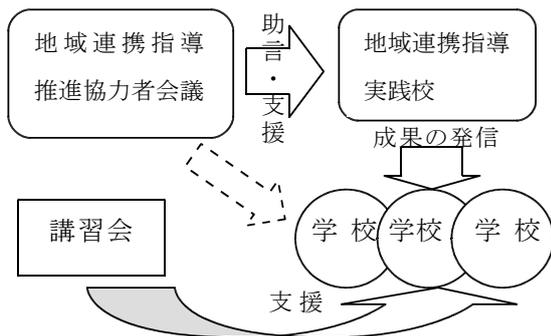
「基本動作を中心とした柔道の指導について」～中学校における柔道の導入的な授業展開～

(2) 研究テーマ設定のねらい

本校は3年前に体育館が新築され、体育館内に柔道場ができたことを機会に柔道の授業を行ってきた。多くの生徒は柔道を初めて行った

が、柔道に興味を持って取り組み、他の単元では味わうことのできない達成感や充実感を味わうことができる生徒もいた。この間専門的技術を持つ教員（有段者）が専門性を生かして授業を行ってきたが、武道必修化へ向けては専門外の保健体育担当教員が指導できる単元計画を作成し、すべての保健体育担当教員が実施していくことが求められる。そのためには、基本動作を中心とした柔道の指導方法の研究が必要である。また、武道場が整備されていない学校にとっては器械運動用マットやジョイント畳マットを使用して実施できる指導内容・単元計画の作成が必要であり、そういった環境でも実施できる指導計画も視野に入れて研究を行うこととした。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成22年度	7月	第1回地域連携推進協力者会議 会議について・意見交換
	8月	武道「柔道」指導者講習会 第2回地域連携推進協力者会議 実践校での授業・方向性の検討
	11月	授業の実践 第3回地域連携推進協力者会議 研究授業・指導の在り方の検討

2 授業事例

(1) 柔道

- ① 目的 学校の実態に応じた柔道指導の在り方について、次のアからウの課題解決に向

けて研究する。

- ア 指導未経験者でも指導しやすいように基本動作や基本となる技の学習を中心とした単元計画を作成する。
- イ 未経験者でも取り組みやすいように、基本動作や基本となる技の学習を中心とした授業に取り組む。
- ウ 柔道場（畳）に加え、器械運動用マットやジョイント畳マットを使用するなど場の工夫に取り組む。

② 具体的な指導方法

ア 地域連携推進協力者会議との連携

県柔道協会の委員からは指導上の専門的な助言、中学校の委員からは指導経験の少ない場合に陥る指導上の課題等についての意見が出された。

イ 指導法の研修

夏期休業中に行われた指導者講習会に参加し、柔道未経験者に配慮した指導方法について研修を受けた。

ウ 生徒による形成的授業評価の活用

毎時間終了後、形成的授業評価¹⁾を活用した、アンケート調査（9項目・記名）を実施し、授業に関わって評価し、学習成果を調べた。集計方法は、質問に対して「はい」「どちらでもない」「いいえ」とし、それぞれ3点、2点、1点として集計・処理した。

③ 成果と課題

ア 地域連携推進協力者会議との連携

委員は県柔道協会理事の方々と専門外の中学校保健体育科教員で構成されていたが、多面的に柔道の授業内容についての意見や助言を頂き、単元計画の作成、具体的指導内容等について理解を深めることができた。柔道協会の委員からは武道必修化の背景としての「伝統と文化の尊重」について、礼節を重んじることなど導入の段階でしっかりと指導すること

の大切さをあらためて教えて頂いた。その助言をもとに、オリエンテーションで柔道の目的である「精力善用」「自他共栄」を取り上げ、柔道そのものの教育的価値にふれたことで、生徒はトラブルや怪我もなく、安全に楽しく柔道の授業に取り組むことができた。また、中学校の委員からは基本となる技や段階的に取り組む技の種類、安全面に配慮した指導方法についての質問を受け、各委員が様々な角度から意見交換することで指導経験の少ない場合に陥る指導上の課題についても、改善の方向性を見いだすことができた。

イ 指導法の向上

夏期休業中に行われた武道「柔道」指導者講習会では『安全で楽しい授業づくりを目指して』を主題（副題：だれでも指導できる柔道の授業）に行われた。この講習会は、武道が必修となり、各中学校の現場で柔道の経験がない保健体育科教員が柔道の授業を受け持つに当たり、安全面を考慮した指導が最も注意すべき点であると考え、特に受け身を中心とした基本動作に重点をおいた内容であった。

全日本柔道連盟が作成した指導教本²⁾・DVDの内容に沿った講習は未経験者でも十分に分かりやすく、安全に行うことができる内容であった。特に横転受け身は横受け身からの発展として、また、前回り受け身の前段階として行うと受け身全般の習得に際して有効であると考えられた。実際の授業でも生徒たちは横転受け身を行うことで簡単に転がり方を覚えることができ、その後の投げ技の練習にもスムーズに入ることができ、効果的であった。

ウ 生徒による形成的授業評価の結果

全体を通して評価得点は高く推移している。男子（図1）は単元を通して『意欲・関心』、『協力』次元が高く、『成果』次元に関しては、単元の進行に従って向上している。女子（図2）も単元を通して『意欲・関心』、『協力』次元が高い。『成果』次元は学習内容によって評価にばらつきが見られたが、おおむね単元の進行に従って向上している。

これらから、本単元においては男女の違いに関係なく、どの生徒も意欲・関心を持ち、協力的に学習に取り組むことで、単元の進行にしたがって成果につながったと考えられる。基本となる技として固め技では「けさ固め」、投げ技では「支え釣り込み足」「体落とし」「大腰」を行ったが、女子は固め技や投げ技において相手の動きに応じて技をかける場面（6時間目の固め技の攻防、8時間目の初めての投げ技）では評価が下がる傾向にあった。このことから、これらの課題は女子にとっては難しかったと考えられ、相手の動きに応じて技をかける場面では、もう少し女子に対して時間の確保や回数を多く練習できる場の工夫などの配慮が必要であった。

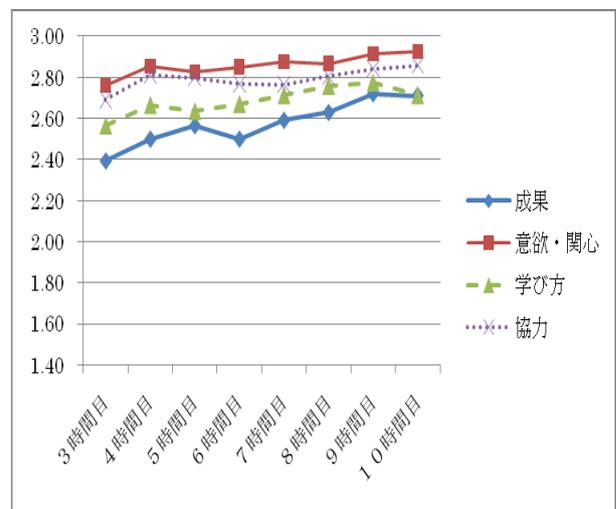


図1 形成的授業評価の推移（男子）

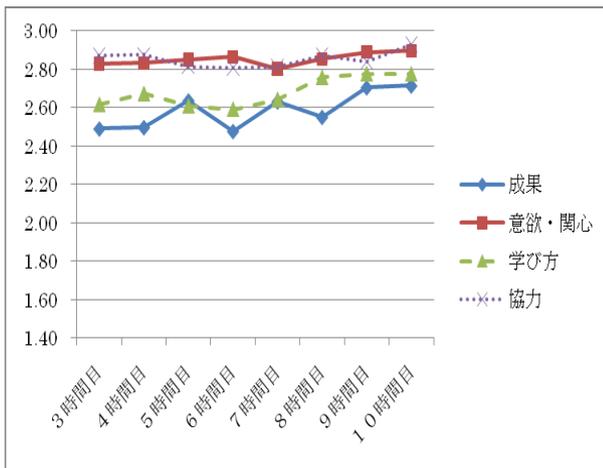


図2 形成的授業評価の推移（女子）

エ 生徒の感想

僕は今回が初めての柔道だったので、最初はまったくできなかつたけど、練習するうちにだんだん上達していったのでうれしかったです。友だちと一緒にやった勝負はなかなか技が決まらなかつたけど、すきを見つけて技を出すことができたのでよかったです。楽しかった。

(男子)



写真1【オリエンテーション：柔道の歴史】

最初はとても怖かつたし、痛そうでやりたくなかつたのに、やってみると痛くも怖くもなくなつて、だんだん楽しくなつてきて、人とやるのがとても面白くて、好きになりました。柔道が終わるとまたやりたくなりました。前に比べて今はとても柔道が好きになって、またやるのが楽しみです。(女子)

体落とし、けさ固め、支え釣り込み足などさまざまな技をしていてとても柔道は楽しい、おもしろいと思いました。先生はいろいろなコツを教えてくれたりしてくれたので、とても分かりやすかつたです。友だちともいろいろな関わりがあり、とても楽しかつたです。これからもする機会があるときはいろいろなことを知り、楽しくやりたいです。

(男子)



写真2【オリエンテーション：礼法（座礼）】

柔道は楽しかつたです。休んでいたのが投げ技がよくわからなかつた時、みんながどうやってやるのかを教えてくれたのがとてもうれしかったです。柔道は受け身ができないと自分の体に怪我をさせてしまうので、とても大切な方法ということを知りました。痛かつたこともありましたが、とても楽しかつたし、うれしい面もあつてよかつたです。(女子)



写真3【オリエンテーション：柔道衣の畳み方】

最初は柔道のことを危ないとか、怖いとかそういうイメージしかなかったけど、実際にやってみて投げられたときは受け身で衝撃を流して痛くないようにしていたということが分かりました。それに、練習をしてきたことも出す最後にした乱取りは、初めて動く相手に技をかけたので、難しかったです。けれど、最後は楽しくできてよかったです。(男子)



写真4【受け身：二人組で後受け身】



写真5【固め技：けさ固め（約束練習）】



写真6・7【授業の目標・ポイントの確認】



写真8【投げ技：体落とし（約束練習）】

柔道はテレビで見ると痛そうだったけど、受け身をしっかりやると痛くなくておもしろかった。また、試合をやる前、お互いに礼をして、試合が終わったら、また礼をする礼法を習ってよかったです。柔道をやっている、特にけさ固めがおもしろくて上手になったと思う。かけられたらなかなか抜け出せなかったけど、かけたらあまり逃げられなくてよかったです。(男子)



写真9【投げ技：乱取り練習（器械運動用マットとジョイントマットを使用）】

柔道では歴史なども学んで、戦う相手も仲間なので、投げる時も手を離さないように大事に投げてあげなければいけないことが分かったし、礼法なども大切なんだなと思いました。友だちと練習などをして、お互いに教え合えたりして、仲良く協力して練習などができてよかったです。(女子)

オ 研究成果の普及

11月11日に小・中・高等学校・特別支援学校の教員（体育担当教員、部活動指導者等）を対象に武道「柔道」授業研究会を実施した。公開授業及び研究協議会には33名（中学校25名・高等学校5名・その他3名）の参加があり、充実した研究会となった。

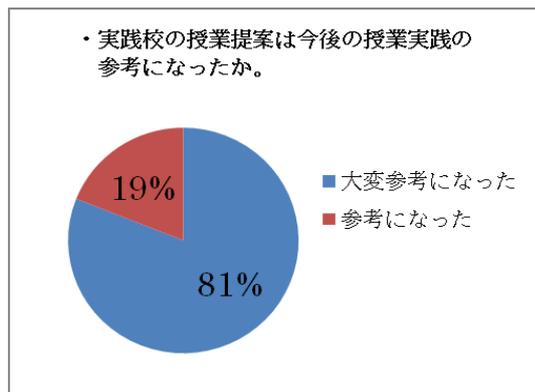


図3 受講者によるアンケート調査

本校は剣道に取り組んでいるが、生徒の姿を見て柔道の指導もやってみたいと思った。自分自身は経験がないが、今日の授業の基本的な技をいくつか選択してやれば自分でもできるかなと思った。（女性）

武道場がない学校なので、マットなどを用いて場の設定ができるということがすごく参考になった。

計画的に授業がされていることが生徒の動きから見て取れた。また、とても楽しそうにやっていたのが印象的で、「いいなあ」と素直に感じた。

限られたスペースの中で、あれだけの人数で柔道が実施できており、あらためて日ごろからの授業規律の大切さを実感した。生徒も意欲的で指導法も勉強になった。

3 今後の展望

単元前と単元後に柔道に対する意識調査を行った。その変容は以下のとおりである。

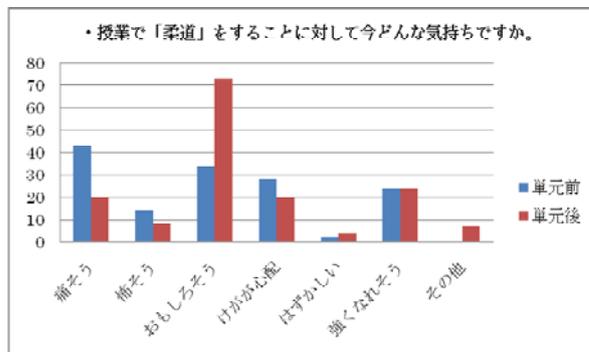


図4 生徒の意識調査の結果（男子）

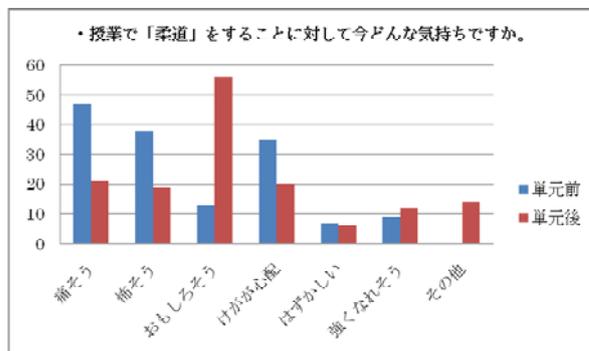


図5 生徒の意識調査の結果（女子）

「基本動作を中心とした柔道の指導について～中学校における柔道の導入的な授業展開を～」を研究主題として、地域連携推進協力者会議と連携して研究を進めてきた。生徒の単元後の意識調査、研究会受講者のアンケート調査の結果から研究課題であった指導未経験者でも指導しやすい単元計画の作成、未経験者でも取り組みやすい授業内容については一定の成果を上げることができたと考えられる。今後はさらに器械運動用マットやジョイント畳マット、その他の用具を用いた場の工夫についての研究を進め、多くの学校で柔道の授業がより安全に実施できるような環境整備に努めていきたい。